

故事成語①

けいせつのごう

① 螢雪の功

とらのいをかきつね

② 虎の威を借る狐

はいすいのじん

③ 背水の陣

ごえつどうしゅう

④ 呉越同舟

いっすいのゆめ

⑤ 一炊の夢

だそく

⑥ 蛇足

がりようてんせい

⑦ 画竜点睛

きゆう

⑧ 杞憂

意味

苦勞して學問に励み成果をあげること。

強いものにたより威張ること。

決死の覚悟で事にあたること。

仲の悪い物同士が一つの所にいること。

人の世界での繁栄は、はかないということ。

よけいなもの。

最も大事な仕上げ。

無用の心配。

故事

家が貧しく、夏は螢の光で、冬は雪明かりで學問に励み、のちに出世した人物の話。

虎を後からついてこさせ、動物たちが逃げようにみせた。

川を背にして逃げ場のない状況の中、兵は死にもぐるいで戦い敵軍を打ち破った。

呉と越の国は長年争っていた。同じ船に乗り合わせたとき嵐に襲われたが、互いに助け合い船を守った。

眠っているときに出世した夢を見たが、起きてみると米も炊きがつていないわずかな時間だった。

蛇の絵を描き勝つたものが酒が飲める競争をした。最初に描いた者が蛇の足まで描き始め、酒を飲みそこねた。

竜の絵に最後の仕上げとしてひとみ（睛）を入れると竜は天に昇っていった。

昔、杞の国の人々が天が崩れることを心配した。杞の心配する

※画竜点睛を欠くとは最後の仕上げが出来ていないことを意味する。